



ひとみの太極拳思考

—— 20周年誌で大変なのに、メールの事もやらなければいけないなんて本当に御苦勞様です。今回私の方はすっかり忘れていて、あわてて書きました。いつも言う様ですが、書いてくれる様な人がいたら、そのうち代ってもらいたいナと思っています。でも頑張ってくれている広報係の気持ちに私の誠意の様な感じで書いています。私の廻りでも結構、評判良く、連盟講師仲間も欲しいと言う人あり、メールプルセンターの会員も注文する人が増えました。—— (うっうっ 嬉しいです 編)

「ほめて育てよ」とよく言われる。ほめられると誰でも嬉しいし、やる気も倍増する。

では、ほめられると上達するかというと、必ずしもそうではない。順番並べはうまくなるが、法則を理解しなければ本質的には何も変わらない。世間のほめ言葉は、錯覚と自己満足に陥りやすいので、御用心!

私はその昔、王西安先生に非常にほめられ、素質があると期待された。嬉しくて懸命に練習した。大会でいい成績を取りたかったので、ひたすら套路をやりこんだ。

自分ではうまくなっていると確信していた。

ところが、久し振りの訪中で王西安先生に言われたことは

「練習していないだろう。進歩していない。前の方がもっと良かった」

「……………」 ガーン!

一瞬、聞き間違えたんじゃないかと思い、先生の顔をのぞき見た。本当らしい。

足の力が抜けていくのが分かった。お世辞は言わない先生だが、「そこまで言うか」という情け無さ。

帰国してからの私は、随分おとなしくなった。(あまり変わらないという声もしますが) この記念すべき強烈なショック以後の数年間指導をやめる事も考えたが、能力の限りは研究してみようと開き直り、昔の老師達のビデオで勁の動きに合わせて、何度も何度も、来る日も来る日も

動いてみた。

背水の陣で、一心に追求すると、的が絞られてくるのが分かった。複雑に見える動作も、実は全て、一定の法則の元で勁は動かされ、極めてシンプルなんだと理解出来た時、やっとからんだ糸がほどけ、気持ちが楽になった。

そして、ここまで追い込まれないと、真剣に研究もしなかった今までの怠慢を恥じた。

“何年同じことばかり繰り返してるんだ”と先生は歯がゆかったことだろう。

あの時のぞき込んだ私の目に映った先生の顔は、「期待してたんだけど、マ、仕方ないネ」というガッカリの表情で、二度とあんな顔は、させたくない、と強く思った。

昔から「老師に“好”^{ハオ}と言われたら、“どうでもいいよ”^{ハオ}と言うことだ」という定番の言い伝えがある。

「今のレベルではそれ以上は無理、それで充分」という意味だ。

“好”^{ハオ}と言われて、喜ぶのはまだ早い。

技術はそんなに甘くない。片手間にやって得られる程、薄っぺらなものではない。

訪中団の団長には気がねして、はっきり言わない老師が多い中、言ってもらえる自分は幸せ者だと感謝している。

